

Windomの解答速報 東京慈恵会医科大学 英語

I.

- (A) 1 nothing
- (B) 2 through
- (C) 3 stranger
- 4 these
- (D) 5 well
- (E) 6 ear

II.

- (1) (b)
- (2) (c)
- (3) (d)
- (4) (a)
- (5) (a)

III.

- (1) (d)
- (2) (c)
- (3) (b)
- (4) (a)

IV.

- (1) (c)
- (2) (d)
- (3) (b)
- (4) (a)
- (5) (d)

V.

問1 (1) them → Many African countries

(5) It → Botswana

問2 (2) 4

(3) 2

(4) 3

(6) 2

問3 [X] 4

[Y] 3

問4 B

問5 4

5

問6 解答例

世界レベルで財産権を経済成長と比較した経済の専門家もいたが、その際、驚くことにも前者（財産権）によって後者（経済成長）の4分の3の説明がつくことならびにボツワナも例外ではないということを彼らは見出した。

VI.

Kyoto cooking is a good example. They have flavored poor food materials with efforts and ingenuities and with ideas and forms such as tea ceremony and Zen, and have raised its quality to the level of works of art.

講評

本年は発音問題がなくなり、大問数が昨年度の7から6に減少した。

文法・語彙セクション(大問Ⅰ～Ⅳ)の出題形式は前年度と同様である。慈恵のここしばらくの傾向として、一般的な大学入試用の参考図書では対応できないものも出題されてきたが、本年もそうであった。慈恵入試対策に万全を期するとすれば、英検1級レベルの語彙力を身につけなくてはならないであろう(ただし、大方の受験者にはこれを行うのは時間的にかなりきついであろう)。以下に、わかりづらかったであろうものについてコメントを記す。

大問Ⅰは会話文中での単語補充であるが、(C)の Don't be a stranger. 「近いうちにまた来てね」(E)の play it by ear 「臨機応変にやる」はかなり正答率が低いのではないだろうか。

大問Ⅱは四択問題であるが、(2)において、things が先行詞の主格の関係代名詞節、(4)の reside in ~ 「～にある」、(5)の make a dent (in ~) 「～(問題など)を減少させる」はなかなか思いつかなかったかもしれない。

大問Ⅲは英文完成問題であるが、(1)の get around to ~ing 「ようやく～に手が回る」は他校でも出題されているイディオムである。

大問Ⅳは正しい文を選ぶ問題であるが、(4)の occasion に occasion+O1+O2 「O1にO2を引き起こす」という動詞用法があるのはあまり知られていないと予想されるが、他のものについては慈恵を目指す以上、b正解すべきであろう。

前述の通り文法・語彙分野では、正解できなくとも仕方がないものも見られたが、大問Ⅴの長文は、慈恵の入試という観点からすると、普通のレベルの問題である。ウインダムの授業においても繰り返し強調してきたことであるが、慈恵は医学系の長文だけではなく社会科学系の英文にも慣れておく必要がある。まさにこれが本年度は的中した。

大問Ⅵは和文英訳問題である。問題レベルは、やや難というところであろう。「京都料理」は、Kyoto food / Kyoto cuisine なども可。「味付けする」は、動詞 season も可。「乏しい」は scanty も可。「材料」は、ingredients も可。

合格ラインは75%といったところであろう。